

Q：これからパッケージデザインをする際に気をつけることは、なんですか？

A：デザインは、世の中の動きに敏感です。特に身近なパッケージデザインに関しては、それが如実に反映されます。パッケージデザインの大きな流れはECO（環境問題）とUD（ユニバーサルデザイン）です。とりわけ、UDは高齢化社会である日本では急務な課題といえます。例えば、ふたの開け閉めに伴う握りの凸凹の出っ張り具合やその間隔などにUDの思想が取り入れられてきています。現在のところ、大手企業が取り組みをはじめていますが、現実には、UDを商品に取り込んだからといって、売上げが伸びるとは言えない状況です。しかし、各社捉え方はまちまちですが、企業姿勢として、確実に広がっています。鹿児島県の農産加工品もこういった取り組みが必要ですが、コストや販売数からみてなかなか出来ないのが実情のようです。環境問題を含めて再生紙の利用や表示する文字の大きさ、見やすさ、封を切った日を書き込めるラベル表示など出来ることから少しでも取り組みをはじめて、パッケージデザインのUDに対して関心を持っていただきたいものです。

UD体験の例：

軍手を2枚はめて、ふたがいつものように開けられますか？ 普段は特に意識しなかったふたに付いたギザギザが有効であることに気づきます。



(デザイン・工芸部)

Q：最近、木造住宅を建築する際に使用されている「認証かごしま材」について教えてください。

「認証かごしま材」とは、県内で育成・加工された丸太・製材品の中から、用途ごとに含水率、製品寸法、材面品質が日本農林規格（JAS）を満たす（一部準じる）材のことをいいます。県産材の利用を促進するために「認証かごしま材」として定義し、安心して安全なブランドとしての普及を図っています。「認証かごしま材」では下記の3つの品質・規格について生産管理や品質管理を行いますが、特に木材の品質に大きな影響を与える含水率の管理には、細心の注意を払っています。

「認証かごしま材」(構造材)の品質・規格

JAS規格に準じた乾燥材であること

基本的には日本農林規格に準じますが、表1のとおり、仕上げ材については乙種構造材（柱等）、甲種構造材（梁、桁等）とも20%以下とし、未仕上げ材については乙種構造材を20%以下、甲種構造材は25%以下とします。

表1 かがしま材の含水率基準

区 分	含 水 率	
仕上げ材	SD15	15%
	SD20	20%
未仕上げ材	D15	15%
	D20	20%
	D25	25%

製品の寸法はJAS規格（表2）を満足していること

表2 かがしま材の寸法基準（単位：mm）

区 分	短辺及び長辺	許容範囲
仕上げ材 (SD)	75未満	+1.0 - 0
	75以上	+1.5 - 0
未仕上げ材 (D)	75未満	+1.0 - 0
	75以上	+1.5 - 0
材 長		+無制限 - 0

材面の品質はJAS2級以上であること

甲種構造材、乙種構造材ともJAS1級、若しくはJAS2級とします。

(木材工業部)